

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895200406		
法人名	社会福祉法人 雄岡山福祉会		
事業所名	幼老の郷 グループホームおっこう山		
所在地	神戸市西区神出町五百蔵142-453		
自己評価作成日	令和7年2月24日	評価結果市町村受理日	令和7年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和7年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の幼老共生の実現の為に認定こども園に隣接してグループホームを開設しました。幼い子ども達と関わることで、自分の役割を見つけ、意欲が高まることによる日常生活の改善や会話の促進を目指しています。各世代がお互いに尊重し合い、助け合う環境を大切にしながらケアを行っています。

週1回の交流時間やキャンプ、ハロウィン、クリスマス、節分等の四季を感じられる活動を年間通して合同で実施しています。お誕生日月にはこども園と一緒に誕生日のお祝いをしてお互いの存在を常に感じながら生活しています。

「食べる楽しみ」を大切にした取り組みとして、リクエストメニューの日やクッキングの日で好きな物を楽しむ機会や職人による目の前での調理で、出来立てのお食事を食べる機会など、さまざまな楽しみのあるお食事の提供を行っています。隣の畑で自分たちが作った野菜を使った食事にも力を入れています。また、昼食はこども園と同じメニューを食べ、子どもたちとの話題のひとつになるような取り組みも行っています。四季の移り変わりを身近に感じることのできる自然豊かな環境で、お散歩し、自然に触れる機会もあります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「幼老の郷」の施設名どおり、認定こども園と隣接している事業所である。園児とリビングの窓越しにおしゃべりするほか、週1回は合同のお誕生日会など様々な交流活動を行っており、利用者が楽しみにしている。コロナの感染減少に伴い今年度からは「居室」で面会ができるよう対応しており、家族だけでなく友人や知人が来訪して楽しく懇談している利用者が何人も居る。職員の意見をもとにインカムを導入するなど、業務の効率化も進んでいる。昼食はこども園厨房で調理した園児と同じ料理を食べる。月3回のクッキングの日には、担当のユニットが手分けして調理し全員で楽しむ。行事の日には豪華な弁当等を注文するなど、食の楽しみも大切にしている。散歩やこども園の田植え見学など日常的な外出支援にも注力しており、昨秋は家族とバス旅行で淡路島に行った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および第三者評価結果

幼老の郷 グループホームおっこう山

評価機関:CS神戸

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や方針に基づいて、自分たちが考える介護を話し合う機会を設けている。また、ケース会議や委員会などでも意見を出し合い話し合う機会を作り、職員、施設長で理念を共有している。法人のスローガンを館内に掲げ、常に意識できるように発信している。	「地域社会の『灯台としての役割』を担う」という法人理念を職員が共有し、毎年の元旦に理事長から提示される方針・スローガンを踏まえて事業計画を作っている。今年は「改革と挑戦」というスローガンのもと、職員が話し合い翌年度の計画を策定した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するこども園のこども達と週1回交流を行っている。季節ごとの行事も合同で実施している。地域の七夕には短冊作りや神出文化祭に参加した。また、特別支援学校の生徒が職業訓練として、施設内外の清掃やリネン交換、ダンスの披露に来てくれている。季節を感じられる壁画を授業で作成し、プレゼントしてもらっている。	隣接するこども園のこども達と週1回は相互に行き来して合同のお誕生日会など様々な交流活動を行っており、利用者が楽しみにしている。近隣の特別支援学校とも、生徒が職業訓練で清掃等に訪れるなど交流が進んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場にて、事業所の取り組みや認知症ケアについて発信している。また、隣接するこども園の職員に認知症の方への理解が深まるよう会議の中で情報を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を行い、運営状況、行事などについて意見交換を行い、今後のサービス向上に活かしている。不参加の家族には議事録を送付し、ご意見を後日頂くこともある。	運営推進会議は地域住民代表の民生委員や地域密着型サービスの知見を有する者など必要なメンバーを揃え、複数の家族の参加も得て隔月で開催し、活発に意見交換をしている。議事録は全家族に送り、会議不参加の家族には来所時に意見を伺っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が中心となり、区役所や神出あんしんすこやかセンターと連絡、連携を図っている。あんしんすこやかセンター主催の研修にもできるだけ参加し、情報共有を図っている。感染症の時期には保健所と連携し、感染対策のご助言・ご指導を頂いている。	市・区役所とは必要に応じ適宜連絡・連携を取っている。地域包括支援センターは運営推進会議のメンバーでもあり、空室状況を知らせたり研修等の情報提供を受けるなど日常的に連携を取っている。年1回開催される地域ケア会議にも参加し意見を述べている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、施設内・居室内で対象となる事案はないが、検証している。検討内容は、運営推進会議にて報告を行っている。また、入社時と年2回は必ず、身体拘束について研修を実施している。	年4回の委員会と年2回の研修を行い、拘束のないケアを実践している。玄関とユニット出入口は安全の為施錠しているが、外出を希望する方には職員が付添って出るなどしている。事故防止の為、家族の了解を得て人感センサーを使っている方がいる。		

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員研修では必須事項とし、現任職員では年2回は社内研修に全員参加し、周知徹底し自分たちの行動が虐待になっていないか検討する機会も設けている。今年より虐待防止委員会を設立し、指針に基づき虐待防止の取り組みを行っている。	研修に加え今年から委員会も設置し、虐待防止を徹底している。共用部にカメラを設置し、事故などがあった場合の検証に役立てている。心の健康に配慮した職員との個人面談も定期的及び随時に行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用している利用者はおられる。研修は成年後見人をされている方に依頼し、計画している。	成年後見人のついている利用者が1人いる。権利擁護に関する制度についての研修は、以前から後見人の司法書士や行政書士に講師をお願いをする計画を立てているが、多忙なこと等もあり、まだ実現していない。	認知症の人の権利擁護は社会的課題でもあり、今後制度のニーズは高まると予想されます。専門家を講師に招く研修を実現され、職員の理解を深めていかれることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書の説明には時間を取り、ひとつひとつ丁寧に説明をしている。緊急時の対応方法や終末期に関する意向も併せて伺うようにしている。また、わかりにくい点が無かったか後日確認も行っている。	契約時には重要な文書は読み上げるなどして2時間位かけて説明し、理解と納得を頂いて契約している。最期までみてもらえるかとの質問には、常時医療措置が必要になれば難しいが、希望があり可能ならば事業所での看取りも行うことを説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているがご家族の意見は常に計画作成担当者か施設長に直接伝えていただけている。また、定期的にご家族へご様子を報告し、その都度ご意見を頂いている。運営推進会議や面会時にご意見を頂く事もある。	家族の意見や要望は、運営推進会議や面会で来所された際に伺うことが多い。来られない家族には計画作成担当者が電話やLINEで連絡している。本人の様子が分かる行事等での写真を、定期的に郵便やネット経由で家族に送り、生活状況を報告している。	利用者が写っている複数の写真を定期的に家族へ送って様子を報告し、喜ばれていることは高く評価したいです。人手確保のご苦労があると思いますが、今後も継続されることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアごとのケース会議や全体での業務改善会議を実施し職員の意見を聞く機会を設けている。施設長・介護主任との職員懇談の機会を設け、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員の意見は毎月フロア会議や全体会議及び年2回の定期面談のほか、随時の懇談の際に出されている。最近では、1人での対応時に緊急の応援を頼める工夫が欲しいとの意見が出され、頭につける通話装置(インカム)を1年位かけて検討・試用し、導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を立て、目標にむかって取り組めるように環境を整えている。能力や貢献度に応じて、昇格や役職者への挑戦もサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を行い、介護の基本、認知症ケアの基本を学び、実務に入ってもらっている。年間で研修計画を立て、定期的に研修を実施している。また、研修のDVDを準備し、必要に応じて確認できる環境を整えている。個人研修プログラムを作成し、業務の合間に個人研修を受け、テストと報告書を提出している。		

自己 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	こども園の職員との合同研修会に参加し、意見交換や交流を図っている。コロナ禍でできなかった保育、介護、障害の分野で施設運営されている他法人との交流の機会が今年より再開された。月に法人内で施設長会を開催し、情報交換や法人の考えを知る場がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にご本人及び家族から現在の生活状況や、以前の暮らしを詳しくヒアリングしている。また、関係者の協力も得ながら、ご本人の要望をお聞きするように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談時に家族の悩みや困り事を解消出来る様に丁寧に話しを聞き相談しやすい関係作りに努めている。また、入所後の不安を取り除くため、来訪時や電話にて状況を伝えている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に本人、家族の状況や要望を確認した上で自施設のサービスだけではなく他の介護サービスについても説明しサービスを選択して頂ける様に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り自立した生活を営んで頂ける様に本人の出来る事、出来ない事を見極め能力を最大限活用できる様に職員一同ケアを行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、施設の様子をお伝えする「おっこう山だより・活動報告」を発行している。家族参加の行事の開催や面会場所、時間の拡充を行い、家族と過ごす時間を大切にしている。また、家族と細かな情報まで共有しケアプランへ反映を行っている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りや面会で会話することができるよう努めている。家族だけでなく、友人・知人の面会や電話にも対応している。	コロナの5類移行後も面会は地域交流室に制限していたが、今年度の5月から居室での面会を可能にした。友人や知人が来所して、楽しく懇談されている利用者が5人ほどいる。法事や墓参りに行かれる方も居るほか、今年は孫の結婚式に出席された方も居た。	

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やこども園との交流を通して利用者同士の交流できる機会を設けている。また、気の合う方と近くなるように食事の席は配慮している。クッキング、壁画作成等共同作業でコミュニケーションが図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後でも、ご本人やご家族から相談があった場合はいつでも受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き、施設運営に反映している。特に夜間や入浴時にはゆっくりと話を聞き、得たニーズは情報共有し、ケアプランや日々の活動に活かしている。ケース会議にて、ご意向を検討する機会を設けている。	利用者の入居申し込みの背景や本人の生活歴等は申込書に詳細に記載されており全員が共有している。職員は日々のかかわりの中で声をかけ、話をして本人の思い、真意の把握に努めている。言葉、表情などからも推し測り、それとなく確認し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にて、入居前の生活状況の把握を行い、その人らしい生活を送れるよう暫定の介護計画書を作成している。入居後もアセスメントを行い、その方にあった暮らしに合わせられるよう実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や体調の変化など見逃さないよう支援しながら様子観察をし、状況を介護記録に記載。毎日の申し送りや記録を振り返り、ケース会議で意見交換し、アセスメント表も活用している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・計画作成者担当者が話し合い、現状の把握を行っている。また、月1回はケース会議を実施し、ケアのあり方を話し合う。家族の意向は計画作成担当者が事前に確認し、計画に反映させている。	入居時には1カ月間の暫定の介護計画を策定する。2カ月目以降の介護計画は、毎月ケース会議でモニタリングを行い、短期目標は3カ月毎、長期目標は半年毎に見直すことにしている。家族の意向を踏まえた利用者の変化に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づき等をケース記録に残している。大きな変化がある場合は、申し送りと連動させ、情報共有し、介護計画書の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービス以外での要望には、方法を模索し、柔軟に対応している。宗教活動を継続したい利用者に施設内で活動できるよう支援を行った。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接するこども園のこども達との交流として、週1回はこども達が施設内に来てふれあう機会を設けている。月1回は合同誕生日会を実施している。また、キャンプ、ハロウィン、クリスマス、節分など季節の行事を一緒に行い、利用者の楽しみにつながっている。	
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望されたクリニックの往診、医療連携機関の訪問看護ステーションによる健康観察を行っている。また、認知症外来、眼科、泌尿器科は希望される病院を受診している。	利用者の9割が、看護師、薬剤師を帯同して月2回訪問診療を行う、協力医療機関医師をかかりつけ医にしている。他は家族対応になるが、認知症外来には職員が付き添うこともある。希望により訪問歯科診療等が受けられる。訪問看護師が各ユニットに月2回来る。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日は、現在の健康状態を報告し、連携を図っている。訪問以外の日でも24時間、電話相談出来る体制を整えている。	
32	(15)	○入院退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での様子を病院に情報提供する。入院中も治療の進捗を家族や病院に確認し、退院にむけた準備を行っている。退院前カンファレンスは可能な限り参加し、施設に戻ってきた際に状態に合ったケアができるよう支援している。	利用者の入院時には、病院に介護サマリーを提供する。入院中は、家族に容態を確認しつつ病院へお見舞いに行き、地域連携室で情報交換を行う。退院受入の要請があるときは、家族と病院のカンファレンスに参加し、受け入れ準備を整える。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化対応・終末期ケアに関する指針に基づき、重度化した際には医療機関との連携も含めて、随時、家族と相談しながら対応する仕組みを契約書に記載している。看取りの意向も随時変化する場合もあると考え、定期的に意向の確認を行っている。	入居時に「医療連携体制及び重度化・終末期ケアに関する指針」により事業所でできることを説明し、家族の意向に添った支援を行っている。今年は5人の方をお見送りした。皆で見送り、管理者中心に、その方の思い出を語り、看取り業務を振り返り共有化した。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成し、職員机に貼りだしている。また、定期的に研修やケース会議でマニュアルの内容を確認し更新している。	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害に備え、年6回施設全体で合同訓練を実施。昼夜問わず利用者が避難出来るように訓練を行っている。また、こども園と連携し合同訓練を実施している。BCPの研修や訓練を定期的に行い、マニュアルの見直しや手順の確認を行っている。	施設合同で毎年6回避難訓練等を行っている。1月17日の震災避難訓練、昼・夜を想定した消防訓練、山火事からの避難訓練などである。水消火器を使ってこども達と一緒に消火訓練も行う。避難訓練では施設から逃げる方向を決めて、利用者も一緒に避難する。

自己 者第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度などの接遇に関する研修を実施し、尊厳を守れるように心掛けている。また、利用者の情報伝達の実施場所や書類の管理を徹底し、プライバシーの保護及び尊厳を守っている。	「利用者を真ん中において物事を考え、悩んだ時は原点に立ち返ろう」と職員に伝えている。リーダーとなる職員が見本となり、誰が聞いても気持ちの良い言葉使いを意識している。肖像権保護のために細かい確認とその励行等を実践している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望を聞き取ったり、ニーズを把握するため、積極的にコミュニケーションを図っている。要望を聞く際には多様な選択肢を用意し、自己決定できるよう働きかけている。行事や日々の活動も無理強いすることなく、参加の有無をご自身で決めてもらうよう支援している。月2回移動販売のパン屋がきて、食べたいパンを見て選ぶことをしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間は決まっているが、無理強いすることなく、臨機応変に対応している。入浴も午前中だけでなく、その方のペースに合わせて時間を柔軟に変更している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2階にカットコーナーを設け、プロの美容師による理美容を受けられる。パーマやカラーの要望にもお答えし、おしゃれを楽しむ機会を作っている。希望者にはネイルやお化粧を楽しむ時間を設けている。	
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	クッキングの日には、季節感を感じられるメニューやお好きなメニューを利用者同士で協力し、食事を作って頂く機会を設けている。寿司職人によるにぎり寿司の日、テラスでたこ焼き、秋刀魚を焼いたり、イベント食を実施し、楽しみにつなげている。	朝夕食は給食業者に委託している。昼食は「幼老共生」で、こども園厨房で調理した園児と同じ料理を食べる。月3回のクッキングの日には、好みの料理や季節の料理を担当のユニットが手分けして調理して全員で楽しむ。行事の日には豪華な弁当等を注文する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食はこども園と同じメニューを提供している。こどもたちと同じ味付けでお出汁や野菜本来の味を楽しんで頂いている。水分はいつでも自由に飲んで頂けるようにポットにお茶をセットし、ご自身で入れて飲まれている。 水分は数種類の嗜好品を準備し、その時に飲みたい物を提供している。嚥下レベルが低下している方には特別食の提供やその方の食べやすい物や好物を提供している。	

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。就寝前には義歯を使用されている方は職員が預かりし義歯洗浄剤を使用し保管している。定期的に口腔ケア用品の洗浄・除菌を実施している。週一回の訪問歯科により、ケアや必要時には治療を行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間帯は排泄パターンを把握し、眠りスキャンで睡眠状況を確認し、覚醒時にトイレ誘導することで出来るだけトイレでの排泄ができるように努めている。排尿量や時間帯を把握し、その方にあったパットやパンツを使用している。常時、オムツを使用している方も必要時に、トイレに座る機会を設けている。	出来るだけトイレで座って排泄してもらう。日中は2人介助で便座に座ってもらうこともある。排泄記録からパターンを把握しており、日中はサインや時間で構えずに声掛けする。夜間は眠りスキャンで覚醒を確認して誘導する。介助方法の気づきや工夫を共有化する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝にヨーグルトの提供やオリゴ糖を甘味料として使用したり、散歩・体操などの運動の時間を設け、腸の動きを良くするように支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にお声掛けをしご希望の時間をお聞きし対応している。入浴拒否のある方にも出来るだけご本人のペースを乱さないようお声かけし、対応している。立位が難しい方はシャワーキャリーを使用し、安全に浴槽に入られるよう環境を整えている。浴室には浴室暖房機を設置し、快適な温度で入浴して頂いている。	週2回入浴の設定である。午前、午後に関時間が設けられ自由に選べる。入浴を嫌がる利用者には本人のペースを乱さないよう声掛けしている。シャワーキャリーで浴槽に入れる装置を整え、利用者全員が湯船に浸かっている。ゆず湯や菖蒲湯を楽しめる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方が快適に感じる室温・照明を調整している。眠れない方は無理に睡眠を進めるのではなく、居心地の良い場所で過ごして頂く。睡眠薬を可能な限り使用せず、日中に活動量を増やし、生活リズムを整えるよう支援している。定期的に布団乾燥を行い、快適に休んで頂けるよう環境を整えている。眠りスキャンで入眠状況を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師も同席し、適切な薬を医師と共に処方して頂く。薬の変更時は、全職員に申し送りを行い、体調の変化がないか留意する。また、服薬介助の際は2名の職員で必ず確認の上、薬の提供を行う。飲み込みが難しい方には、形状を薬剤師とも相談し、負担なく服用できる方法を実施している。		

自己	者第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事(調理、洗濯、掃除等)を利用者同士で協力して行っている。また、隣りの土地に畑を作り、収穫した。収穫した野菜は、クッキングの日に調理して味わった。編み物や手作業が得意な方には取り組める時間を作っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は園庭での体操や散歩、季節の花や木々を見にいくドライブなど、外出の機会を設けている。家族と自宅で過ごす時間やお墓参りに行く時間も大切にし、希望に沿って出かけることができるよう支援している。秋にはバスを貸し切り家族参加の遠足を淡路島まで行った。	週に1回は行くメンバーを朝選び、こども園でラジオ体操を一緒に行っている。以前は外に出た時に園児が声をかけてくれる程度だったが、今は一緒に手をつないでウォーキングすることもあるまでになった。お花見は家族やこども達と一緒にいった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の入居されている方でご自身で金銭管理を行われている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内で携帯電話で家族や友人との会話を楽しまれている。電話のかけ方がわからなくなっている場合は職員が充電量や着信の確認、操作方法のサポートを行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある木目調で、落ち着いた雰囲気フロアになっている。季節感を味わえるよう四季折々の花、利用者手づくりの壁画、毎月の活動写真を展示し、それを話題とした会話につながっている。	気候の良い時期には週1回こども達と体操する。散歩に出たい方とは、余裕を見て周辺を散策する。テラスのプランターで花を育てる。行事で、焼き芋づくりやこども達の田植えの見学をする。職員とドライブにも出かける。秋には家族とバス旅行で淡路島へ行った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こども園に面した大きな窓からは、こども達の活動の様子がいつでも見れる環境になっている。また、各階ソファ横に200匹のアクア(海水魚)が泳ぎ、和ましてくれている。独りでゆっくりと過ごせる環境を作っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具や家族の写真を居室内に展示している。TVやDVDプレイヤー、ラジオを持参し、ご自身が見たい番組を好きな時間に見て過ごしておられる。	居室には使い慣れた家具や仏壇などを持ち込んでもらっている。ご主人や家族の写真を飾っている方もかなりいる。ラジオを聞いたり本を読むことで落ち着く方には、それができるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行ができるように手すりを設置している。また、歩行状態に合わせて、居室内に手すりやベッドにL字柵を設置し、安全にご自身で移動できる環境を整えている。身体状況に応じて、ベッドの向きや家具の位置を変えている。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容